



## 全学共通科目「鳥取学」について

教育センター 教育開発部門 准教授 <sup>たけ</sup> <sup>だ</sup> <sup>げん</sup> <sup>ゆう</sup> 武 田 元 有

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。今後、鳥取大学での学生生活が実り多きものとなるよう、心から祈念しております。

ところでみなさんはどちらの出身でしょうか。大学では高等学校までとは違って全国各地から学生が集まってきます。鳥取は初めてだというひとも多いのではないのでしょうか。鳥取は全国で最も人口の少ない県ですが（60万人弱）、北には青く澄み渡る日本海、南には中国地方の最高峰・大山をはじめ緑の美しい山々を控え、自然条件を活かした様々な農産物や新鮮な海産物に恵まれています。また気候は比較的穏やかですが、暑い夏、冬の降雪など四季の移り変わりはとても鮮やかで、豊かな自然環境に囲まれながら、古来、文化の香り高い風土が形作られてきました。

こうした鳥取の姿をもっと詳しく知るために、とくに県外出身者のみなさんにお勧めしたい授業が、後期・月曜3限に開設される全学共通科目の特定科目の「鳥取学」です。全学共通教育の科目ですので、所属学部・学年にかかわらず、すべての学生が受講できます。この授業では毎回、鳥取大学の教員のほか、学外の自治体関係者・学識経験者・専門家を講師として招きながら、歴史・文化・社会・自然など様々な角度から、鳥取を学んでゆきます。昨年度の授業では、とくに鳥取のもつ歴史的・文化的遺産に焦点を当て、これまでの考古学の常識を塗り替えたといわれる妻木晩田遺跡・青谷上寺地遺跡（なんと古代人の脳みそが出土）、古事記に登場する代表的な神話である因幡の白うさぎ伝説（その舞台は湖山からすぐ近く）、世界遺産登録を目指している三徳山（断崖絶壁の国宝「投入堂」で有名）、等々について学ぶ機会を設けました。それから鳥取をとりまく自然環境・地勢に関しては、ユネスコの世界ジオパークネットワーク認定を目指す「山陰海岸ジオパーク」（なだらかな鳥取砂丘＋入り組んだ浦富海岸）、また自然と共生する産業の事例として、鳥取の特産品・土産品である二十世紀梨の栽培・品種改良の現状などもテーマとしてとりあげました。そのほか、全体の概要は次頁を参照して下さい。なおこの授業では現職の鳥取市長・鳥取県知事も講師として招きましたが、普段なかなか接することがない自治体首長の声を直接聞くことができるのも、この授業の魅力の一つだと言えます。

この授業は後期に開設されるため、今年度の授業計画は現在検討中ですが、昨年度の結果を踏まえながら、さらに内容を充実させてゆく予定です。関心のある人は是非受講してみたいかがでしょうか。この授業を履修すれば、今後実家に帰省した際、両親や友人に鳥取は一体どんなところか、良い面、悪い面を含め、教えられるようになるはずですよ。

## 平成21年度の担当講師・講義題目

※このプログラムは平成21年度後期のものです。今年度後期の担当講師・講義題目は現在調整中ですので、詳細は後期履修手続の際にシラバスを参照して下さい。

第1回「鳥取学の課題」	能勢 隆之 (鳥取大学・学長)
第2回「鳥取の祭り・行事」	原島 知子 (鳥取県・文化財課)
第3回「鳥取方言の地域性」	谷守 正寛 (鳥取大学・国際交流センター)
第4回「砂像のまち鳥取－鳥取市の観光戦略－」	竹内 功 (鳥取市長)
第5回「鳥取の神話は世界の神話」	門田真知子 (鳥取大学・地域学部)
第6回「鳥取発！青谷上寺地遺跡の骨が語る」	井上 貴央 (鳥取大学・医学部)
第7回「信仰の山：三徳山」	中原 齊 (鳥取県・文化財課)
第8回「鳥取のナシ産地形成と『20世紀』の功績」	田邊 賢二 (鳥取大学・名誉教授)
第9回「江戸と明治のお殿様－鳥取池田家の明治維新－」	岸本 覚 (鳥取大学・地域学部)
第10回「山陰海岸ジオパーク」	西田 良平 (放送大学・鳥取学習センター)
第11回「倉吉緋」	吉田公之介 (鳥取短期大学・緋美術館)
第12回「鳥取の遺跡から読み解く縄文・弥生時代の暮らし」	濱田 竜彦 (鳥取県・教育文化財団)
第13回「とっとり新時代を拓く」	平井 伸治 (鳥取県知事)
第14回「鳥取の自主上映－39年の軌跡－」	清水 増夫 (とっとりフィルムコミッション)
第15回「鳥取でオペラを創る」	新倉 健 (鳥取大学・芸術文化センター)



写真：左より能勢学長（第1回）、竹内市長（第4回）、平井知事（第13回）、清水増夫氏（第14回）